

新しいバージョンのデータベース検証環境を用意していますので、必要に応じて動作検証を実施して下さい。

事前動作確認方法の大まかな流れは以下になります。

2017年9月27日(水)までに動作確認を実施して下さい。なお、確認後は各種設定を元に戻し、データベースのバージョンアップ実施日に備えて下さい。

既存データベース (バージョンアップ前)	検証用のデータベース (バージョンアップ後)
MySQL5.0 系	5.7 系 (5.7.18)
PostgreSQL8.4 系	9.5 系(9.5.7)

- (手順1) 既存データベースのバックアップを取得します。
- (手順2) 検証用のデータベースにデータをリストアします。
- (手順3) 検証用のデータベースに接続するよう、設定ファイルを変更します。
- (手順4) 動作確認を行います。
- (手順5) 動作確認後、(手順3) で変更した設定ファイルを元に戻します。

(手順3) の検証用のデータベースに接続先を変更した時点で、検証用のデータベースにのみデータが更新されます。検証用のデータベースから既存のデータベースへのバックアップ、リストアは保証されませんので、動作確認の前に、ユーザへの周知や、動作確認用の端末以外は接続制限する設定等の検討をおこない実施して下さい。
なお、端末制限した設定等を行った場合は動作確認後、元に戻すことを忘れないで下さい。

それでは、具体的な手順について説明します。

- (手順1) 既存データベースのバックアップを取得します。
 - (1) home サーバ (login サーバ) あるいは、ホスティングサーバへ SSH で接続します。
 - (2) バックアップコマンドを実施しバックアップファイルを取得します。
利用登録システムでデータベース名やユーザ名、パスワード (初期値) は確認できます。 <https://reg.huc.hiroshima-u.ac.jp/>

	home サーバ	ホスティングサーバ
MySQL	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>1.mysqldump --skip-lock-tables --skip-add-lock -h home-mysql.huc.hiroshima-u.ac.jp -u データベースユーザ名 -p データベース名 > バックアップファイル名</p> <p>2."Enter password:" と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、バックアップファイルが作成されます。</p>	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>1.mysqldump --skip-lock-tables --skip-add-lock -h hosting-mysql.huc.hiroshima-u.ac.jp -u データベースユーザ名 -p データベース名 > バックアップファイル名</p> <p>2.."Enter password:" と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、バックアップファイルが作成されます。</p>
PostgreSQL	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>pg_dump -x -c -h home-psql.huc.hiroshima-u.ac.jp -U データベースユーザ名 -W データベース名 > バックアップファイル名</p> <p>3."Enter password:" と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、バックアップファイルが作成されます。</p>	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>pg_dump -x -c -h hosting-psql.huc.hiroshima-u.ac.jp -U データベースユーザ名 -W データベース名 > バックアップファイル名</p> <p>3."Enter password:" と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、バックアップファイルが作成されます。</p>

(手順2) 検証用のデータベースにデータをリストアします。

- (1) home サーバ (login サーバ) あるいは、ホスティングサーバへ SSH で接続します。
- (2) (手順1) で取得したバックアップファイルを検証用のデータベースへリストアします。

	home サーバ	ホスティングサーバ
MySQL	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>1.mysql -h 133.41.13.226 -u データベースユーザ名 -p データベース名 < バックアップファイル名</p>	<p>(データベースユーザ名、データベース名、バックアップファイル名は読み替えてください)</p> <p>1.mysql -h 133.41.13.227 -u データベースユーザ名 -p データベース名 < バックアップファイル名</p>

	<p>2."Enter password: " と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、リストア作業は完了です。</p> <p>リストア完了後はバックアップファイルは不要ですので削除していただいてかまいません。</p>	<p>2."Enter password: " と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、リストア作業は完了です。</p> <p>リストア完了後はバックアップファイルは不要ですので削除していただいてかまいません。</p>
PostgreSQL	<p>1.psql -q -f バックアップファイル名 -h 133.41.13.224 -U データベースユーザ名 -W データベース名</p> <p>2."Enter password: " と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、リストア作業は完了です。</p> <p>リストア完了後はバックアップファイルは不要ですので削除していただいてかまいません。</p>	<p>1.psql -q -f バックアップファイル名 -h 133.41.13.225 -U データベースユーザ名 -W データベース名</p> <p>2."Enter password: " と表示されるので、データベースパスワードを入力</p> <p>(ここで入力した文字は画面には表示されません)</p> <p>以上で、リストア作業は完了です。</p> <p>リストア完了後はバックアップファイルは不要ですので削除していただいてかまいません。</p>

(手順3) 検証用のデータベースに接続するように設定ファイルを変更します。

データベースの接続先を設定しているファイルは使用している環境によって異なります。

プログラムを業者に依頼し開発している場合は、業者に確認をして下さい。

設定ファイルを次のように変更して下さい。

※設定ファイルには、変更前のデータベースの接続先の記載が存在します。

※変更前に設定ファイルのコピーを取得して下さい。

	home サーバ	ホスティングサーバ
MySQL	<p>(変更前)</p> <p>home-mysql.huc.hiroshima-u.ac.jp</p> <p>(変更後)</p> <p>133.41.13.226</p>	<p>(変更前)</p> <p>hosting-mysql.huc.hiroshima-u.ac.jp</p> <p>(変更後)</p> <p>133.41.13.227</p>
PostgreSQL	<p>(変更前)</p> <p>home-psql.huc.hiroshima-u.ac.jp</p> <p>(変更後)</p>	<p>(変更前)</p> <p>hosting-psql.huc.hiroshima-u.ac.jp</p> <p>(変更後)</p>

	133.41.13.224	133.41.13.225
--	---------------	---------------

(手順4)

動作確認を各自で実施して下さい。

動作確認時に接続端末を制限する例を以下に記載します。

例) 特定のゾーン C からのみ接続を許可し、動作確認をする場合。

ゾーン C のグローバル IP アドレスを確認する。

<http://test-ipv6.com/>

等で確認できます。

IPv4 アドレス 133.41.74.72

2001:0:4137:9e76:1858:ae3:7ad6:b5b7

以下は上記の情報が取得できた場合の設定方法になります。

home/ホスティングは、標準では学内外のすべてのクライアントから制限なくアクセスできるように設定されています。そのため、Web サービスで提供する一部のコンテンツについてアクセスを制限したい場合は、**.htaccess** によるアクセス制限を設定する必要があります。

該当のディレクトリの

.htaccess ファイル (通常は public_html の下に存在します) を

まず、Deny ディレクティブですべての接続元からのアクセスを拒否します。その上で、Allow ディレクティブで IP アドレスを許可します。なお、ファイルのパーミッションは 604 にします。(htaccess ファイルがない場合は、作成します)

```
Deny from all
```

```
Allow from 133.41.74.72
```

```
Allow from 2001:0:4137:9e76:1858:ae3:7ad6:b5b7
```

※変更前に**.htaccess** ファイルのコピーを取得して下さい。

(手順5) (手順3) で変更した設定ファイルや (手順4) のアクセス制限ファイルを元に戻して下さい。

以上